ぱらボラ

96.7.20
第2号

発行：東灘・地域助け合いネットワーク
〒658　神戸市東灘区住吉東町2-3-28　東灘区役所中庭事務所
TEL 078-843-4029 FAX 078-842-2907
e-mail tasukeai@mxb.meshnet.or.jp



七夕の飾られた深江浜ふれあいセンター

今月のトピックス（7月）

●神戸市消防局の広報紙「雪」9月号、座談会の取材あり
●大阪府立松原高校生、ボランティアに参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・★
●全労済が部内プロモーションビデオ用に当ネットワークを撮影
●東灘区民夏まつり、8月25日に開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・★
●来春の東京都主催の防災に関する国際シンポジウムの打ち合わせ
●当ネットワークのプロモーションビデオ撮影始まる・・・・・・・・・・・・・・・★
●「災害時における市民互助型団体支援ネットワークのための研究会」に出席
●深江浜ふれあいセンターに七夕が飾られる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・★
●多紀郡社協「秋には、ぜひ収穫にどうぞ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・★
●「いきいき食生活サポート講座」（東灘連合婦人会・保健所共催）に
昼食作りのボランティア6名が参加

活動レポート

◆高校生がボランティア体験！

大阪府立松原高校１年生８人と先生１人がボランティアにやってきたのは６月25日（火）。久々に若者たちの熱気でムンムンと思いきや、みんな意外におとなしい。

魚崎仮設の茶話やかパラソル、通院介助、家の片付けなどに分かれて参加し、「最初は不安だったけど、ありがとうと言われてうれしかった」「家ではしたことのない風呂掃除をした」などの感想がでた。皆で昼食後、当ネットワークのボランティアと交流会をし「人に世話をしてあげるというより、させてもらっているという気持ちでいたい」というボランティアの話などにうな付いていた。後日「また夏休みに行きます」とのうれしい電話がありました。

◆ビデオ撮影始まる

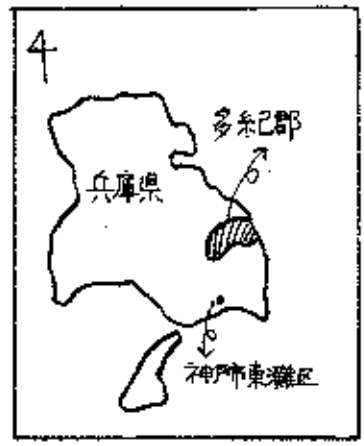
７月11日、地元のビデオ制作会社（株）プロテックのマネージャー飯下さん、カメラマン市川さん、アシスタント山追さんが来られ、当ネットワークのプロモーションビデオの撮影が始まりました。

このビデオはネットワーク参加希望者へのオリエンテーション及び外部への活動紹介とボランティア活動の啓蒙などのために使います。初日のこの日は朝のミーティング風景に始まり３ヵ所の活動風景を撮りました。

８月いっぱいかけてさまざまなシーンを撮影し編集作業に入るので、完成は秋頃の予定です。お楽しみに。

◆来てもらうより、どっか行きたいなぁ！

昨年10月15日の“丹波秋まつり”を皮切りに兵庫県多紀郡社会福祉協議会による被災地支援活動として“ふれあい昼食会”が六甲アイランド、深江浜の各仮設住宅で順々に行われている。多紀郡といえば“丹波篠山の黒豆”で知られており、ふっくらした黒豆の入った黒豆ご飯や黒豆もちなどが大好評。篠山町、丹南町、今田町、西紀町の４町で順に担当しその日は昼食会にまにあうよう早朝に出発されている。最近、多紀郡から「皆さんにもっと喜んでもらえることを」と提案があり多紀郡と東灘区の両社会福祉協議会、仮設住民の意見を取りまとめた当ネットワークの三者による連絡会がもたれた。その結果８月以降に丹波への遠足の企画がもちあがった。実現に向けて現在進行中。



◆七夕に願いを込めて

深江浜ふれあいセンターに色とりどりの短冊が飾られた。お手玉などもあり実に個性的である。そもそも七夕祭りとは、女の子の手芸の上達を祈る行事であった。

「しあわせちょうだい」「低家賃の公団が当たりますように」短冊に託した切実なる願いは、胸に迫るものがある。どうか天まで届きますように・・・・

祈る私のそばにリュウマチで手が不自由だという女性が近づいて来られた。「いいでしょう。皆で寄って凝って飾ったんよ」と話してくれた。再び、ふたりで風にそよぐ七夕を見上げた。

◆区民夏まつりに参加を！

「東灘区ボランティア連絡会」は震災後、東灘区社会福祉協議会と区内ボランティアグループの連絡会として毎月開かれている。

7月の会議では、区民夏まつり＜*8月25日（日）午後2時～9時　灘高校グラウンドにて*＞の参加について話し合われた。サンバにだんじり囃子、クロード・チアリのショーなど華やかなメインステージの他に模擬店も多数出る予定。ボランティア連絡会では車イスやアイマスクの体験コーナーや、移動入浴車の実演などを行う。当ネットワークは、活動写真のパネルを展示し、ボランティア全般の相談にも応じる。準備と当日のボランティアを募集しています。





着替えと廊下の歩行の介助

初めての依頼は約3ヵ月前。ベッドに横になられたままの岡本武雄さん（仮名・89歳）に表情や言葉はなかった。まず背中を押し上げて体を起こし着替えを手伝う。背中を支えたまま立ち上がり、娘さんがおしめを換えられるのを待つ。傾く体を背中から抱えて一歩一歩、洗面所まで。支えた私の手が痛いのではと不安がよぎった。娘さんが始終話しかけながら岡本さんの顔を洗っていく。手際よい介護をされる娘さんの指示についていくのが精一杯だった。

先日の岡本さんは、ベッドで自ら体を起こそうと懸命に両手を伸ばされた。洗面所までが近く感じられた。帰り際に「ありがとうございました」しっかりしたお声を笑顔と一緒に頂いた。80歳まで働いてこられた岡本さんを見た思いがした。

（体験・松村一史）

1996	サービス内容	4月	5月	6月
家事	掃除・調理等	51	54	56
介護	介護一般・話し相手・様子伺い等	386	241	143
移送	車による通院・外出介助等	45	45	63
	車による引越・荷物運搬等	32	43	22
	小旅サービス	0	3	4
住宅設備改善	大工仕事・修理等	5	7	3
その他	室内での荷物運び・移動・その他	13	7	15
ふれあいセンター		43	54	33
茶話やかテント		8	6	6
ふれあいサロン		7	7	7
心のオアシス		1	2	4
その他のイベント		3	2	4
サービス件数		594	471	360
一日平均サービス件数		23	17	14
参加ボランティア総数		708	613	597
一日平均ボランティア数		27	23	24
ボランティア登録数（累積）		1,236	1,250	1,277

8月のネットワーク・カレンダー　August／1996

日	月	火	水	木	金	土
				1 ♡ふれあいサロン スタッフ月例会 ♡中央助け合い ミーティング	2	3 ◇若芽の会／盆踊り大会 （ハワイ 館1~館3）
4 ◇第12回ふれあいダンス教室（ハワイ 第5・第6合同）	5 ♡ネットワークリーダー月例会	6 ♡ボランティア研修 B講座 ◆ふれあいサロン （田中医院）	7	8 ▲茶話やかテント （浜仮設） ◆ふれあいサロン （川島クリニック） ♡第28回常任幹事会	9 ♡東灘区ボランティア連絡会	10 
11	12 	13	14	15	16 ♤八尾市教育委員会より打合せ	17
	ボランティア活動は午前中のみ・昼食なし					
18 	19	20 ◆ふれあいサロン （河原医院） ♤ゾンタクラブで スピーチ	21 ◆ふれあいサロン （深山医院）	22 ◆ふれあいサロン （宮地クリニック） ♡東灘区地域ケアネットワーク会議	23 ♤スロバキアNPO フォーラム	24 ♤解脱会／これからのボランティア
25 ◇東灘区民夏まつり （灘高校グラウンド） ♤さわやか福祉財団 リーダー研修会 （仙台）	26 ▲茶話やかテント （手水仮設）	27 ◇全労済／第3回生活支援ネットワーク研究会	28 ◇夏休みコンテナ船・ターミナル見学 （ハワイ 館1~館3） ◆ふれあいサロン （有光医院）	29 	30 ◇いきいき食生活サポート講座／第2回	31 ♤京都福祉生協／ホームヘルパー養成講座

マーク見方

▲ 茶話（さわ）やかテント（午前11時～午後12時30分）
小規模仮設住宅を中心に地域の方の交流を中心とした楽しい移動集会所。

◆ ふれあいサロン（午後2時～3時30分）
地域の医院の待合室で高齢者の生きがいづくりのお手伝い。簡単な体操、歌、健康についての話など。

♤ 講演会、シンポジウムなどに出席

♡ 会議

♤ 取材・来訪者

◇ 他団体の事業・企画に協力

▲茶話（さわ）やかテント
◆ふれあいサロン
} にぜひ参加を！

☎843－4029

かつどうジグソー 2 病院の待合室から地域の輪

家にこもりがちな高齢者の方たちが病院の待合室から地域の輪を広げていく。病院の休診時間を提供していただき、お茶を飲みながら体操、手芸、医師の健康講座など様々なプログラムが用意されている。これを名付けて「ふれあいサロン」という。人々とふれあうことで触発しあう。私達はそんな高齢者の自立に役立ちたい。昔ながらの地域の復活は人々の生きがい作りになるはずだ。

去年11月より始めて、現在7ヶ所(注)で月一回ずつ開催。回を重ねるごとになじみの顔も増えてきた。楽器演奏に合わせて唱歌やなつメロを歌う。いつぞやは歌いながら、過ぎ去りし幾多のロマンを思い出されたのか、そっと涙ぐむシーンも見てしまう。ホロリと私の胸まで熱くなった。「楽しかったわ」と皆に喜ばれ、あっという間の一時間半。

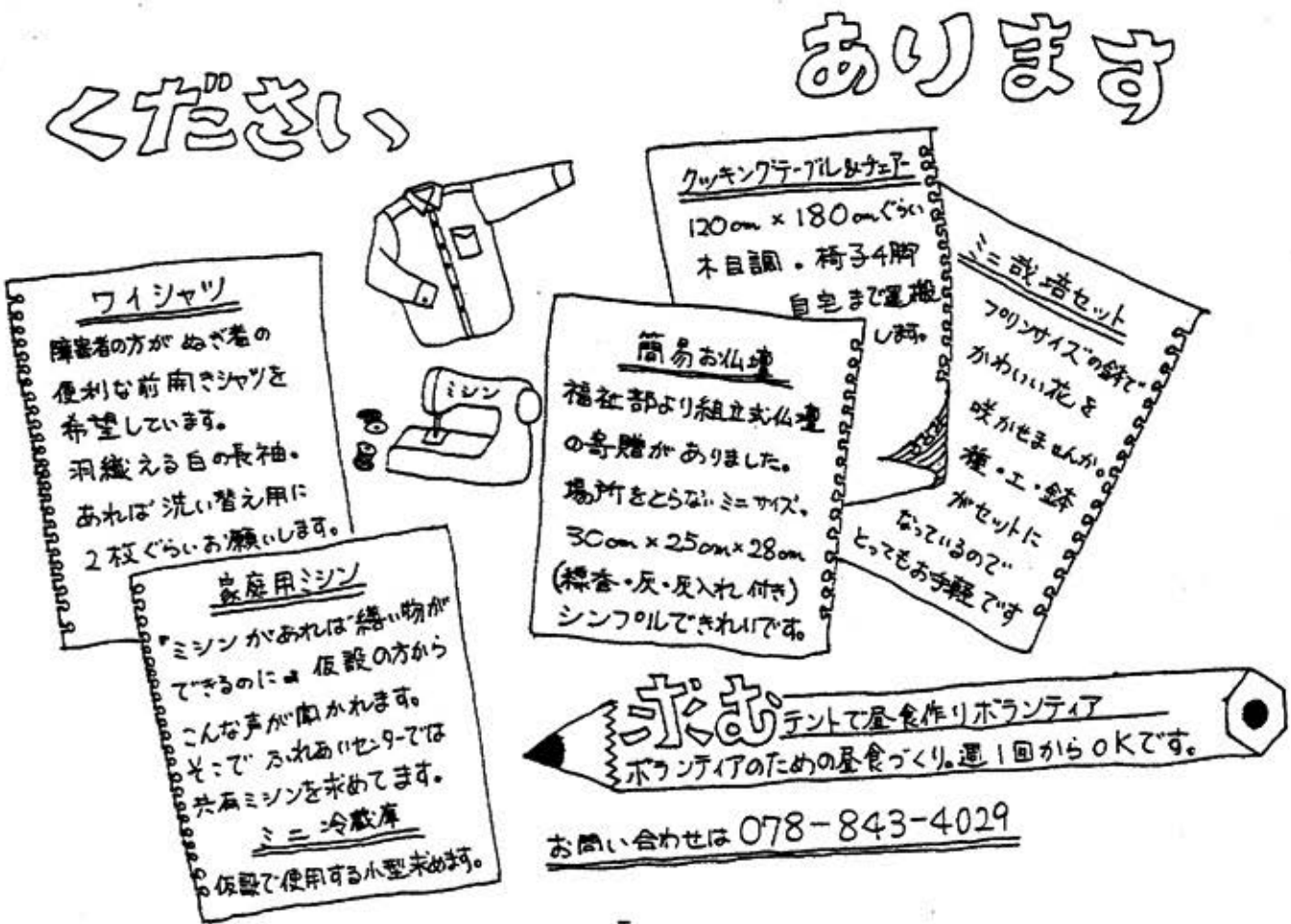


（7月16日河原医院にて）

家の掃除を途中で投げ出して、自転車蹴って「何でこんなしんどいことをしてるんや」と思ったこともすっかり忘れ、今日もまたすばらしき出会いがあったことに感謝する。

（ふれあいサロン担当ボランティア村山メイ子）

注）東灘区の医師会や民生委員協議会などの協力を得て始めた、ふれあいサロン。9月からは8ヶ所になる。ゆくゆくは区内全域に広げたい。



どんな人？ こんな人！

支援者

■末岡和子（すえおかかずこ）
■50才代
■東灘区
魚崎北町在住
■ろう梅会代表
（痴呆老人と家族を援助するボランティアグループ）



■自ら痴呆老人を抱えながら「この経験を生かせないか」と6年前からろう梅会でボランティアを始めた。震災直後から西隣の公園で避難生活をしている町内の人に自宅を開放。そして当ネットワークの催しにも近所の老人とともにときおり参加されている。

ボランティア

■小松永知（こまつえいじ）
■40才代
■東灘区
本庄町在住



■車による通院・外出送迎、ボランティアの現場への送迎
■2才の時患ったポリオのために車椅子による生活。自宅で学習塾の先生をしている。「できることは自分でする」と自ら運転し、車を乗り降りする時も自ら車椅子を引っ張り出したり積み込んだり。5月には移動式スロープの提供もあった。手助けを受けるときもさりげなく。控えめながら頼りになる存在。

話のぽけっと

ゴキブリだんごの作り方

ゴキブリが好物の玉葱と殺菌効果のあるホウ酸を一緒に食べ消化管が壊死を起こし、脱水症状になり排水管のほうに水を求め死んで行く。そのため死骸を目にすることも少ない。

材料：70個分：玉葱350g　ホウ酸500g（1箱）　小麦粉（140g）砂糖（大さじ3杯）牛乳（大さじ1杯）

1）水は絶対入れません。水洗いせず玉葱の皮をむき、すりおろす。2）ホウ酸、小麦粉、砂糖、牛乳、1）の玉葱を混ぜこねる。3）しだいにねっとりして、だんだんまとまってくるので板の上にビニールを広げ、直径3センチくらいに丸めてならべる。4）カラカラになるまで天日に乾かす。

家の物陰に置きます。子供が口にするとたいへん危険です。くれぐれも注意して下さい。これでだいたい2家庭分、ご近所の方と一緒にどうぞ。もちろん半量でも作れます。

―多数の応募ありがとうございました―

先月の創刊号でタイトルを募集しましたところ、41件もの応募がありました。7月27日のボランティア交流会で人気投票をした結果、山下結美さんの「ばらボラ」（パラボラアンテナのように情報を発信する。楽しみながらボランティアをする、ボランティアのパラダイス）に決まりました。どうぞ、「ばらボラ」を末長くよろしく。

編集後記

●冷房のないプレハブ事務所に、蚊、ハチ、アリ。夏の仕事はもお大変。（原俊子）
●『下さい、あります』いいめぐり会いがあって成立しますように！（村山メイ子）
●ゴキブリだんご よくききます。（上村光代）
●暑いよ、かゆいよ、マウスの握りすぎで右肩だけ凝るよ。（竹内克仁）
●次号から皆様へインタビューを始めます。ご協力お願いしまーす。（松村一史）

活動レポート

◆高校生がボランティア体験！

大阪府立松原高校１年生８人と先生１人がボランティアにやってきたのは６月25日（火）。久々に若者たちの熱気でムンムンと思いきや、みんな意外におとなしい。

魚崎仮設の茶話やかパラソル、通院介助、家の片付けなどに分かれて参加し、「最初は不安だったけど、ありがとうと言われてうれしかった」「家ではしたことのない風呂掃除をした」などの感想がでた。皆で昼食後、当ネットワークのボランティアと交流会をし「人に世話をしてあげるというより、させてもらっているという気持ちでいたい」というボランティアの話などにうな付いていた。後日「また夏休みに行きます」とのうれしい電話がありました。

◆ビデオ撮影始まる

７月11日、地元のビデオ制作会社（株）プロテックのマネージャー阪下さん、カメラマン市川さん、アシスタント山追さんが来られ、当ネットワークのプロモーションビデオの撮影が始まりました。

このビデオはネットワーク参加希望者へのオリエンテーション及び外部への活動紹介とボランティア活動の啓蒙などのために使います。初日のこの日は朝のミーティング風景に始まり３ヵ所の活動風景を撮りました。

８月いっぱいかけてさまざまなシーンを撮影し編集作業に入るので、完成は秋頃の予定です。お楽しみに。

◆来てもらうより、どっか行きたいなぁ！

昨年10月15日の“丹波秋まつり”を皮切りに兵庫県多紀郡社会福祉協議会による被災地支援活動として“ふれあい昼食会”が六甲アイランド、深江浜の各仮設住宅で順々に行われている。多紀郡といえば“丹波篠山の黒豆”で知られており、ふっくらした黒豆の入った黒豆ご飯や黒豆もちなどが大好評。篠山町、丹南町、今田町、西紀町の４町で順に担当しその日は昼食会にまにあうよう早朝に出発されている。最近、多紀郡から「皆さんにもっと喜んでもらえることを」と提案があり多紀郡と東灘区の両社会福祉協議会、仮設住民の意見を取りまとめた当ネットワークの三者による連絡会がもたれた。その結果８月以降に丹波への遠足の企画がもちあがった。実現に向けて現在進行中。



◆七夕に願いを込めて

深江浜ふれあいセンターに色とりどりの短冊が飾られた。お手玉などもあり実に個性的である。そもそも七夕祭りとは、女の子の手芸の上達を祈る行事であった。

「しあわせちょうだい」「低家賃の公団が当たりますように」短冊に託した切実なる願いは、胸に迫るものがある。どうか天まで届きますように・・・・

祈る私のそばにリュウマチで手が不自由だという女性が近づいて来られた。「いいでしょう。皆で寄って凝って飾ったんよ」と話してくれた。再び、ふたりで風にそよぐ七夕を見上げた。